

美

例

茨城県／友部町第一保育所
木の床は子供の遊び場
跳んで、はねて、やさしく、暖かく



民家調で屋根の勾配が美しい外観



テラスと廊下の境には楽しく彩られた柱が並んでいます

木に囲まれて自然を感じながら
子供たちが成長することを願って

田園風景が残る茨城県友部町に、民家風の
外観とカラフルな丸太柱が人目を引く保育所
があります。この保育所の特徴は建物のほと
んどに木を使用していること。子供たちの生
活の場になる室内は、床、壁、天井すべて木
で構成されています。床はヒノキ、吹き抜け
になっている各部屋の天井には直径六十センチの
ベイマツの丸太梁がどっしりと構えています。
こうした木に対するこだわりには、子供たちが
自然とふれあいながらたくましく成長して
ほしいという願いが込められています。

「わっ」パタパタッ。廊下を元気よく走
り回る子供たち。L字型の平面で構成されて
いる各保育室は幅二メートルもある広い廊下
でつながり、このスペースは子供たちの遊び
場も兼ねています。この廊下は伝統的な縁側
をイメージしてつくられています。天井のト
ップライトから日差しを採り入れ、引き戸を





吹き抜けの天井にペイマツの巨木が梁として使われています。ダイナミックな空間を構成している3～5歳用のゆうぎ室

ゆうぎ室は子供たちのお昼寝の場所にもなります。遊び場を兼ねた廊下はひろびろとして、トップライトを設けた天井も赤とブルーグレーでカラフルに彩られています



開放すると心地よい風の通り道となり、外部と内部の中間的なスペースになっています。
太陽と風と木。自然に囲まれたこの保育所には暖房器具が見当たりません。ここでは子供の安全性を重視して、すべての保育室とトイレに温水式の床暖房を設けています。





3歳用保育室。床の感触を大切にしたいということで子供たちは上履きを履かずに素足で過ごしています



3~5歳用の保育室に隣接したトイレ。桑畑だったこの敷地の名残りでトイレの壁には「まゆ」を運んだ古い紙袋を利用して貼り、その上を和紙で仕上げています



どこの保育室の前にも縁側をイメージした広い廊下が設けてあります

**素足で遊ばせることで
床の感触を味わってもらいたい**

この保育所が完成したのは今年の三月。保育所の卒業式に父兄を招いたときに、「スリッパはありませんか」と聞かれたそうです。一般家庭でも室内でスリッパを履く生活スタイルがすっかり定着し、素足で歩くことが少なくなっています。素足で床のうえを歩くとヒンヤリすると考えていた父兄の方たちは、木の床がポカポカと暖かいのでビックリ。

子供たちにも床の感触を味わってもらいたいという考えから、以前は靴下や上履きを履かせていましたが、この保育所になつてからは素足で過ごしています。

「雨の日になると子供たちが、外で遊びたがつて困っていたのですが、この保育所に移つてから不思議と言わなくなりました」

と保母の桑原さん。建物が広くなったので室内でも外と同じようにのびのびと遊べ、素足で床を走り回っている感触がとても解放的で気持ちよく、子供たちをさらにのびのびとさせているのかもしれない。



2歳用保育室。木にこだわって収納棚、椅子、遊び道具もすべて木製



乳児のためにミルクを作る調乳室



0~2歳用のトイレは扉で仕切らないオープンスタイル。ここは沐浴室にもなっています



職員室にも床暖房がされています

**ポカポカと暖かいので
お昼寝も快適です**

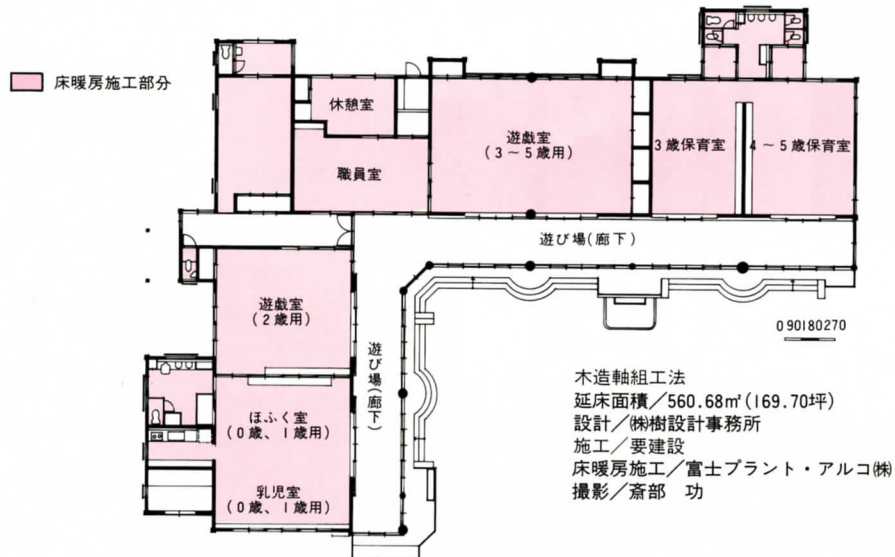
零歳から五歳までの幼児を預かる保育所は、「遊び」と「昼寝」が生活の重要な核になっています。楽しい給食が終わった後は、保母さんが本を読んでくれます。そして、たくさん遊んで汚れてしまった足の裏をきれいに拭いてから、床いっぱいにもみんなで布団を敷いてお昼寝の時間です。

以前の保育所の床も木でしたが、冬は寒いので布団の下にゴザやカーペットを敷いたりしていました。でも、ここでは木から伝わる温もりを損なわないように、床に布団を直に敷いてあとはタオルケットだけで十分な暖かさです。少々寝相が悪くても大丈夫。

「床暖房をしているから大丈夫です」と言っているのですが、お母さんが心配して毛布を持つてくる方もいらつしやいます。足元からポカポカと暖かい感覚は体験してみないとわか



0~1歳用ほふく室。どの部屋も天井は吹き抜けて構成され、太い丸太が姿を現しています



らないですものね」
床をハイハイする子供、やっとヨチヨチと
歩き始めた子供、時にはころんだら痛いかし
らと心配しながらも、いつも木の温もりはや
さしく、子供たちの心を育んでいるようです。